

【ご報告】理事長の交代、理事辞任のお知らせ

2008年3月25日に開催された理事会において、理事長三井健一が一身上の都合により辞任願を提出し、2008年3月31日付けで理事長を辞任することになりました。定款に基づき後任の理事長の選任を理事会で行い、理事内の互選の結果、2008年4月1日付けで、副理事長小原宏文が理事長に、副理事長に理事降旗香代子（事務局長兼任）が就任いたします。

また2008年3月31日付けで、三井健一、笛山大介、田代紀子が一身上の都合により、理事を辞任いたします。在任中には会員のみなさまを始め、多くの方々にひとかたならぬご支援・ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ

霧ヶ峰基金は発足から3年目になります。その間、御射山ビジターセンター（ヒュッテ御射山）を拠点にエコツーリズムの普及、啓発、霧ヶ峰の保全を目指し日々邁進してまいりました。これらはすべて会員のみなさまをはじめ多くのかたのご支援の賜物であり、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

多大なご支援のある中、先月ご報告いたしましたとおり、諸事情により活動拠点を移し新年度から活動することになりました。これは、今後活動を続けるためにはやむを得ない選択であることをご理解いただけますようにお願い申し上げます。霧ヶ峰基金では、エコツーリズムの普及・啓発、霧ヶ峰の環境保全を推進するため、今後の活動を再構築し、長期、中期、そして2008年度の活動計画を改めて立案いたしました。

エコツアーアは2008年度も複数回計画いたしております。さらに今後のエコツアーアの充実と霧ヶ峰の魅力（＝資源）の再発見のため各種調査を行います。項目としては、過去の草原利用実態調査、現在の八島湿原周辺のモニタリング調査及び情報GIS化、未来の草原資源の活用調査、遊歩道の整備・検討を行います。また、活動報告会、会員親睦会・交流会を計画中でございます。詳細は、会員さま対象の説明会ならびに次号の会報でご報告いたしますが、理事一同、どの計画も会員みなさんのご参加をこころからお待ち申し上げている次第であります。活動の成果は短期間では目に見えるものではございませんが、みなさまと共に霧ヶ峰に理想の花が咲くようにがんばりたいと考えております。今年度も霧ヶ峰基金へのご支援を宜しくお願ひ申し上げます。

（副理事長 小原宏文）

※2008年4月1日以降の役員構成（予定）は以下のとおりです。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

理事長：小原宏文

副理事長：藤田香、降旗香代子（事務局長兼任）

理事：梅谷匡尚

監事：西村増夫、宮坂正之

中長期目標及び2008年度事業計画についての方向性について

2008年3月8日、社員（正会員）を対象に会合を持ち、今後の運営方針の確認及び20年度活動計画の検討がなされました。

今後ともNPO法人霧ヶ峰基金は、「霧ヶ峰の環境を持続可能な形で利用する、霧ヶ峰型エコツーリズムの確立」を目指して活動を継続していくことを再確認いたしました。

長期目標を「かつての採草地としての草原利用から、霧ヶ峰の自然環境の保全が可能かつ現代に合った利用方法の再構築」と位置づけ、中期目標を「霧ヶ峰のもつ資源価値（歴史、文化、エネルギー資源、観光、経済的効果などの多角的な視点による）の再発見」としました。

そうした長期・中期目標にいたる個別の事業について、2008年度は、

- ・調査活動（植生、水質など）の充実、成果の公表・活用
 - ・エコツアーアの実施及び人材確保
 - ・快適な登山道を保持するための提案、試行、評価
 - ・GIS（地理情報システム）を利用したデータ収集の開始
 - ・かつての草原管理方法についての情報収集
 - ・霧ヶ峰にまつわる史料や伝統文化についての収集、データ化
- などを実施していく案が提出されました。



これらをもとに2008年度事業案、予算案の組み上げを行い、5月下旬（予定）の定期総会で正式決定を行ないます。

会員のみなさまへ 説明会のおしらせ

理事会より、平成19年度の活動経過の報告及び平成20年度の活動方針の詳細につきまして、説明会を開催いたします。

2008年4月19日（土）10:00～12:00
どうぞお誘いあわせの上、お出かけください。

諏訪市 湯小路いきいき元気館3階・会議室

霧ヶ峰の資源的再構築について

当法人は「霧ヶ峰の環境を持続可能な形で利用する、霧ヶ峰型エコツーリズムの確立」を目的として、2006年5月に発足いたしました。

当初は霧ヶ峰の御射山に拠点を持ち、「ヒュッテ御射山」の運営を中心とした活動を行ってきました。しかし、残念ながら昨年末にヒュッテ取得を断念することとなり、霧ヶ峰における活動の拠点を失うこととなりました。主な活動の拠点を霧ヶ峰から失うことは、法人として大きな打撃を受けることであり、法人の存続を左右する事態となりました。

しかしながら「現在まで御支援いただいた皆様の付託に背くことはできない」「当法人は、霧ヶ峰の環境保全のために果すべき使命を達成していくべきではないか」などの意見が出され、法人が活動していく価値はまだあるものとし、活動の指針として中長期目標を設定しました。



今回、3月8日の話し合いを持つ中で法人の活動としての中期的、長期的な目標を立てました。これは、当法人が霧ヶ峰の中においての役割を明確化することと、法人の目的を達成するために踏んでいく段階をはっきりさせが必要であったためです。目標の段階としては次の様にしました。

短期的目標としては2008年度の活動計画を実施していくことにより、霧ヶ峰の現状や当法人活動の再評価を



していくことしました。各種調査や資料情報の収集等を図りながら霧ヶ峰の現状を把握し、エコツアー等の活動を通じながら人材の育成をすることにより、法人の活動も含めた評価をし、各種問題点や課題をはっきりさせていきます。

中期目標としての「霧ヶ峰のもつ資源価値の再発見」は、これら再評価から明確化してきた課題や問題点をクリアしていくことや、具体的な解決の方法を発見していくことで、新たなる観点をもつことによる再発見することとなります。

また、収集してきた情報や霧ヶ峰の現状を分析する中で、考古学的な観点や歴史資料、諏訪神社関連、江戸時代からの入会権に関する文献史料、人々が霧ヶ峰と関りあう上で作り上げた文化、日常生活より必要とした牛馬の飼料、農耕作に用いた刈敷としてのエネルギー資源、ビーナスライン無料化に伴い増加し続ける観光客、それを迎入れる観光地としての在り方、経済的効果、などを含めた多角的な視点から、資源価値の再発見をするものです。今まで気付くことのなかった潜在的な価値を発見することも、今回の中期目標にあてはまります。

再発見を重ねていき、より多くの観点や視点を持つことで霧ヶ峰の持っている資源を把握、理解をしていくことにより長期目標とする「霧ヶ峰の自然環境の保全が可能かつ現代にあった利用方法の再構築」につなげていくことができると考えています。

（副理事長 藤田香）

